
会 告

日本鉄鋼協会 第50回通常総会 第69回講演大会 開催ご案内

会 員 各 位

日本鉄鋼協会会長 湯 川 正 夫

本会は来る4月5日(月)に第50回通常総会および4月5日(月)、6日(火)、7日(水)の3日間第69回講演大会を東京大学において開催いたします。また4月8日(木)に日本金属学会と合同で見学会を催すことになりましたので、下記日程ご覧のうえ、多数会員ご参加下さるようご案内申し上げます。

なお、本年は大正4年に本会が創立されてから50周年を迎えることになり、本会期中に別記のごとく記念式典ならびに祝賀会を挙行いたすことになりましたので、合わせお知らせいたします。

また4月4日(日)には本会ほか4学協会共催のもとに、第10回材料の強度と疲労に関する総合シンポジウム(本誌会告N3ページ参照)が開催されます。

記

1. 総 会 (詳細は会誌第4号(3月号)にてお知らせいたします)
昭和40年4月5日(月) 13:00~14:30 第50回通常総会、表彰式
2. 講 演 会 (講演論文集は会誌第4号(3月号)、第4号(4月号)として大会前までに会員全員に配付いたします)
昭和40年4月5日(月) 9:00~12:00 (総会終了後も講演会がありますのでご注意ください)
15:00~17:00
4月6日(火) 9:00~12:00
4月7日(火) 9:00~12:00
3. 懇 親 会 50周年祝賀会として別記のごとく行ないます。
4. 見 学 会 昭和40年4月8日(木) 詳細は会誌第2号(2月号)会告にてお知らせいたします。
5. 会 場 第50回通常総会、表彰式 東京大学工学部2号館大講堂 } 東京都文京区本富士町1
第69回講演大会 東京大学工学部2号館、3号館 }

なお今回は創立50周年記念式典のため、表彰記念特別講演会、共同研究会部会報告講演会は取止めといたします。ただし、服部賞、香村賞、俵論文賞、渡辺(三郎)賞、渡辺(義介)賞受賞者には講演にかえて、原稿の執筆をお願いし、追って会誌に掲載をいたす予定であります。

会員入会勧誘についてのお願い

本会は本年創立50周年を迎え、4月には盛大な式典を挙行いたすこととなりました。

この間、本会は会員各位のご尽力により順調な発展を遂げ、わが国鉄鋼技術、学術に関する最も権威ある学会として内外にその重きを加えております。

正会員、学生会員においても、その数は年々増加し、現在9000有余名を擁するにいたりましたが来るべき創立50周年の記念すべき日までに、会員数を10,000名とし、本会事業の一段の飛躍を計り、もつてわが国鉄鋼界の発展に貢献いたしたいと願ひいたしております。

会員各位におかれましても、本会の意を了とせられ勤務先、お知合いの方々と非会員の方がおられましたら入会のご勧誘方お願いいたします。なお入会申込書は本誌に綴込みましたのでご利用下さい。

創立 50 周年記念式典について

本会創立 50 周年記念式典は下記のごとく挙行されますので、多数会員お誘い合わせのうえご参加下さるようご案内申し上げます。

記

1. 日 時 昭和40年4月6日(火) 13:00 より
2. 場 所 東京大学安田講堂
3. プログラム
 1. 奏 楽
 2. 会 長 式 辞

3. 来 賓 祝 辞
4. 表彰(褒賞、製鉄功労賞、協会事業功労賞)
5. 名誉会員推挙
6. 特別講演(講演者未定)

創立50周年記念祝賀会について

創立 50 周年記念祝賀会は記念式典終了後下記のごとく開催いたします。会員各位の多数のご参加により盛大な祝賀会といたしたいと思ひます。なお参加お申込みのご案内は会誌第2号(2月号)会告に掲載いたします。

1. 日 時 昭和 40 年 4 月 6 日(火) 19:00~20:30
2. 会 場 ホテルニューオータニ

創立 50 周年記念事業について

本年は、本会が大正4年に創立されてから50周年を迎えることになりました。本会で一昨年来「創立50周年記念事業準備委員会(委員長 湯川会長)」を設け、記念事業につき種々検討してまいりましたが、下記の事業を行なうこととなりましたのでお知らせいたします。

記

1. 記念式典 別記参照
2. 褒 賞

褒 賞 国の内外を問わず鉄鋼に関する学術・技術の発展に国際的な業績を挙げられた者に対し、金牌を贈呈いたします。今回は第1回の授与になりますが、本賞は数年に1回授与されることとなります。(従来の褒賞は名称を褒論文賞と変更の予定)

製鉄功労賞 鉄鋼に関する学術・技術の発展に功績のあつた者に対し賞牌を贈呈いたします。

協会事業功労者 協会事業に対し功績のあつた者に対し表彰状ならびに記念品贈呈いたします。

3. 記念出版

1) **日本鉄鋼協会50年史** 本会創立から今日に至るまでの鉄鋼業界ならびに学界の推移と、年々活発になる本会の活動状況を取りまとめたもので、記念式典までに完成の予定。

2) **鉄と鋼記念特集号「鉄鋼技術の進歩」** 最近10年間に進歩発達したわが国鉄鋼技術の推移を特集し、特に進歩発達の著しかった技術および製品について重点的にテーマをピックアップし、進歩発達した技術および製品が現段階にいたるまでの過程の解説、将来への展望を内容としており、鉄と鋼第51年第3号臨時増刊号として2月末日に刊行の予定。

3) **鉄と鋼50周年記念号** 50周年を記念して行われる記念式典の模様、特別講演会の内容を盛り、合わせて第50回通常総会、表彰者講演の内容と第69回講演会の模様を鉄と鋼7月号に掲載すべく検討中であります。

4. 外人招待

50周年記念式典に海外15カ国より25名の招待を決定、

招待状の発送をいたしました。出席者からは祝辞を戴く予定でありまた名誉会員に推挙すべく準備中 であります。なお現在までに確定した出席者は下記の通りで、なお数名の参加が予定されております。

外国人招待者

Belgium	Prof. Dr. Pierre Coheur
England	Dr. Frank Henry Saniter (President: ISI)
	Mr. Headlam-Morly (Secretary: ISI)
West-Germany	Prof. Dr. Willy Oelsen (Director des Max-Planck)
U.S.A.	Prof. Dr. John Chipman (MIT)
France	Mr. Henri Malcor (President de la Compagnie des Acieries)
Italy	Prof. Dr. Antonio Scortecchi (Directore Institute Siderurgies Finsider)
India	B.SC.(Met.)PH. Dr. Bal Raj Nihjawan (Director of National Metallurgical lab.)
Latain America	Dr. Carlos Prieto (Presidente, Instituto Latiano Americano Del Fierro Y EI Acero)
Netherlands	Mr. Alexander Drijver (Managing Director: Koninkijke Nederlandshe Hoogovens En Staalfabrieken N.V.)

50周年記念「鉄と鋼」特集号(臨時増刊)

「鉄鋼技術の進歩」刊行のお知らせ

会では本創立50周年記念事業の一環として、最近10年間に進歩発展したわが国鉄鋼技術の推移を特集し、「鉄鋼技術の進歩」と題し、「鉄と鋼」特集号として刊行することになりました。

本特集号は、最近10年間に於いて進歩発展の著しかった技術および製品について重点的にテーマを選び、進歩発達した技術および製品が理論的あるいは技術的(生産技術的)に現段階に至るまでの過程を解説、また将来への展望を内容とし、下記目次のごとく製鉄、製鋼、鋳物、加工、性質の5部門に分け、それぞれの専門家が執筆されたもので、わが国の鉄鋼技術の現状を理解するうえにまた実際作業面の上でも参考となる貴重な資料が多く含まれております。

本会会員に鉄と鋼第51年第3号臨時増刊号として全員に配付いたしますが、会員外の方でも購読を希望される方が多いかと存じますので、希望者には下記により申込まれるようご勧誘下さい。

記

1. 内 容

1. 製 鉄

- 1.1 製鉄理論と技術の展望
- 1.2 原料処理法
- 1.3 高炉用コークスの製造
- 1.4 高炉設備
- 1.5 高炉操業技術
- 1.6 電気製鉄法
- 1.7 特殊製鉄法
- 1.8 フェアラロイ製造技術

2. 製 鋼

- 2.1 製鋼理論と技術の展望
- 2.2 溶銑予備処理法
- 2.3 純酸素転炉法
- 2.4 真空冶金
- 2.5 連続鋳造法

3. 鋳 物

- 3.1 鋳物に関する理論と技術の展望
- 3.2 鋳鋼技術
- 3.3 鋳鉄溶解技術
- 3.4 強靱鋳鉄技術
- 3.5 造型法

3.6 遠心鋳造法

4. 加 工

- 4.1 加工理論と技術の展望
- 4.2 ストリップミル
- 4.3 線材圧延機
- 4.4 鋼管製造技術
- 4.5 熱間押出法
- 4.6 型打鍛造法
- 4.7 建材製造技術
- 4.8 クラスタミル
- 4.9 薄鋼板の性能
- 4.10 表面処理鋼板

5. 性 質

- 5.1 鉄鋼材料に関する理論と技術の展望
- 5.2 材 料
 - 5.2.1 高張力鋼
 - 5.2.2 耐熱鋼およびステンレス鋼
 - 5.2.3 原子炉用鋼
 - 5.2.4 電磁材料
 - 5.2.5 快削鋼
 - 5.2.6 構造用鋼

5.2.7 工具材料

5.2.8 バネ鋼

5.2.9 軸受鋼

5.2.10 粉末冶金

5.3 処理法および測定法

5.3.1 加工熱処理技術

5.3.2 試験検定法

2. 発 行 昭和40年2月末日の予定

3. 頒 価 750円 送料 60円

4. 申込方法 「鉄鋼技術の進歩」および送付先を明記、代金送料同封のうえ現金書留にてお申込み下さい。

5. 申 込 先

東京都千代田区丸の内 1-1
交通公社ビル 日本鉄鋼協会

材料の強度と疲労に関する総合シンポジウム(第10回)

共催：日本学術振興会、日本機械学会、日本金属学会、日本鉄鋼協会、日本材料学会

協力：材料の微視および巨視力学挙動の統一研究会

日時 昭和40年4月4日(日) 9:30~17:00

会場 東京大学工学部2号館大講義室

プ ロ グ ラ ム

開 会 の 辞

日本学術振興会常務理事 理博 岡田 要

座長 中村 正久

9:30 (1) 材料破壊強度の統計的理論

小野田中央研究所 理博 堀 素夫
波木 守

10:15 (2) 金属材料の高温動クリープと疲労

京都大学助教授(機械) 工博 小寺沢良一

座長 鶴戸口英善

11:00 (3) 高速疲労

日立製作所中研 工博 山根 雅巳

11:45 (4) 双晶と脆性破壊の関係

金属材料技研 理博 本多 竜吉

座長 川田 雄一

13:10 (5) 鉄鋼の機械的破壊の機構

東北大学教授(機械) 理博 横堀 武夫

14:25 (6) 非金属介在物と強度と破壊

日本製鋼研究所 工博 渡辺 十郎

座長 荒木 透

15:15 (7) 高張力鋼の諸性質と今後の問題点

八幡製鉄技研 工博 合田 進

16:10 (8) 耐熱鋼のクリープ強度と組織との関係

住友金属中研 工博 三好 栄次

閉 会 の 辞

資料申込方法 前刷(タイプ騰写印刷100余ページ)

1部送料共300円)希望者は代金を同封3月2

日迄に 仙台市南町通69 若生ビル内 日本金

属学会宛 お申し込み下さい。

(以後は当日会場売り)

材料破壊国際会議講演募集 (1965 年)

I. 会議の特徴的性格および目的

材料の強度や破壊の原子論的機構、微視組織学的機構および連続体力学的機構などの関連性を明らかにし、もって微視(Micro)挙動と巨視(Macro)力学的挙動との結びつきを行なうことを目的とする。すなわち、材料破壊機構を統一的に究明するための討論を中心とする。

II. 会議計画の概要

1. 日 程 昭和40年 9月13日(月)～9月16日(木)
2. 場 所 仙台市
3. 主要題目
 - (1) 材料の強度と破壊の微視および巨視機構とそれら理論の結びつきの基本的理解
 - (2) 材料破壊の多様相の実体の基本的究明
 - (3) 材料疲労の基本的機構と理論
 - (4) 材料の組織、欠陥と強度、延性および破壊の関連性の基本理解
 - (5) 材料の強度と破壊への環境条件の影響(高温、低温、高歪速度、高圧力、雰囲気等の影響)
 - (6) その他
4. 会議使用語 原則として英語

5. 講演申込要領

- (1) 講演は欧文では未発表の論文に限る。
- (2) 論文題名、講演者氏名および勤務先を明記した申込書を。
- (3) 400字詰原稿用紙2枚以内の論文概要と共に、
- (4) 昭和40年3月15日(月)までに本会議事務局へ提出のこと。(3月15日事務局着厳守)
- (5) 事務局所在地
仙台市桜小路
東北大学工学部材料強度研究施設内
材料破壊国際会議事務局

申込論文の採否は委員会において昭和40年4月上旬まで決定される。採諾された論文は英文前刷原稿を昭和40年5月末日までに提出しなければならない。

III. 主催協賛および後援

主催: 材料破壊国際会議組織委員会
材料の微視および巨視力学挙動統一研究会
協賛: 本会ほか6学協会および公共機関
後援: 文部省、日本学術振興会、日本学術会議
なお、詳細は本会議事務局にお問い合わせ下さい。

日本学術会議有権者登録について

日本学術会議第7期会員選挙が本年11月25日に行なわれます。有権者名簿の登録について下記のごとく連絡がありましたのでお知らせいたします。なお詳細については日本学術会議(東京都台東区上野公園内: 電話東京821-3751代)にお問合わせ下さい。

記

1. 登録カードの提出について

- (1) 前回(昭和37年)の選挙の有権者については、前回提出のカードにより、昨年資格審査が行なわれました。これに関し、日本学術会議中央選挙管理会から特別の通知のなかつた方はすべて有権者名簿に登録されますから、あらためて登録用カードを提出する必要はありません。
ただし、前回の登録における所属以外の部または専門で今回の登録を求めようとする方は、「所属部または専門変更届」(様式省略)を添えて、登録用カード用紙を請求し、次項(2)に準じ新たに登録を求めてください。
- (2) 前回の選挙の有権者以外の方および前回の選挙の有権者で中央選挙管理会から特別の通知のあつた方が、新たに今回の登録を求める場合は、中央選挙管理会に登録用カード用紙を請求入手のうえ、きたる3月31日までに中央選挙管理会に必着するよう登録用カードを提出しなければなりません。4月1日以後は到着した登録用カードは、中央選挙管理会で保管して、次回(昭和43年)の会員選挙の登録用カードとして取り扱います。

2. 登録用カード用紙の請求について

- (1) 登録用カード用紙の請求に関し、大学、研究機関等に対して、「登録用カード用紙請求者名簿」の提

出を依頼して、便宜上これをもって「登録用カード用紙請求書」に代え、その提出された名簿に基づき中央選挙管理会から当該大学、研究機関等あて一括カード用紙を送付します。したがって、中央選挙管理会から名簿提出を依頼された大学、研究機関等に所属する方で、すでに個人としてカード用紙を請求した方以外の方は、なるべくその所属の大学、研究機関等から提出の名簿によつて、登録用カード用紙を請求してください。(名簿によつて請求する場合は、個人からの請求は不必要ですから、重複して請求しないよう特に注意してください。)

- (2) 前記大学、研究機関等に所属しない方等で今後個人でカード用紙を請求する方は、「登録用カード用紙請求書」(様式省略)を直接中央選挙管理会あて提出してください。

3. 有権者等の異動届について

有権者は氏名、住所、本籍、勤務機関および職名、および勤務地のいずれかに異動があったとき、または博士の学位を取得した場合は、そのつどすみやかに、「有権者異動届」(様式省略)を中央選挙管理会に提出しなければなりません。これを怠るときは、有権者の権利を行使できないことがあります。なお、登録用カード提出者は有権者名簿に登録される以前においても異動の届を励行してください。また、本人が死亡した場合は、その遺族からその旨を届け出てください。